

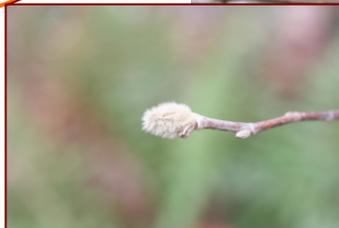
ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Vol.28 Winter 2014

シテコブシの冬芽

あいち海上の森センターの遊歩施設内にあるシテコブシがたくさん冬芽をつけています。
春が楽しみですね。



写真：シテコブシの冬芽



特集 海上の森はいま

“収穫祭”が行われました！

みんなのこえ ～来館者アンケート結果～

海上の森散歩 ～海上砂防池・湖底探検！～

この人！ <海上の森を見てきた一人として>

海上の森の会 馬宮孝好さん

ライフライ図書を紹介します！

オオタカ観察記 氏原 巨雄 著

- 鳥類画家が見続けた都市近郊での九年間の繁殖記録 -

著者が根気よく観察したオオタカの生態を文とイラストで記録しており、つがいの出会い、卵を守るためのカラスとの攻防、ヒナの誕生、子育て、巣立ち、をそれぞれドラマチックに描いています。都市近郊だからこそできた日々の記録からは、オオタカ的生活観が容易に想像でき、まるで自身が観察しているかのように思えてきます。





特集 海上の森はいま

“収穫祭”

が行われました！



11月23日（土）、里山サテライトにて海上の森の会の皆さんが中心となって“収穫祭”が行われました。海上の森で収穫された野菜やお米、お蕎麦を里と森の教室の参加者や一般の方々と一緒においしくいただきました。自然の恵みに感謝しながら、森の中で食べる野菜がたっぷり入った汁物や、つくたてのお餅は格別な味がしました。

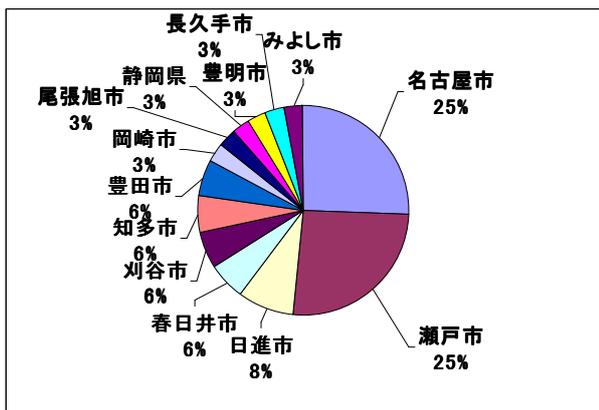


収穫祭のようす
みんなのこえ

～来館者アンケート結果～



2013年の4月から12月に来館された方々に書いていただいた「来館者アンケート」をまとめました。アンケートのご協力ありがとうございます。皆さんがどういった地域から来館されているかについて、下記の円グラフのような結果が得られました。



この結果から、地元である瀬戸市の方が一番多く、次いで名古屋市からの方が多くなります。遠方は静岡県から訪れていただいたことには、大変嬉しく思います。これからも一人でも多くの方に足を運んでもらえるように海上の森をPRしていきたいと思ひます。

海上の森散歩



海上砂防池の湖底探検！！

海上砂防ダムが造る池の、満々と水を貯めているときの美しい水面から立ち枯れの木が現れている風景は、海上の森の代表的な景観の一つとなっています。しかし、このダムは、そもそも治水目的のダムで、また農業用のため池という役割も併せ持っていることから管理上、秋から早春までの間、水が抜かれます。水が抜かれている間は、その美しい景観はなくなるものの湖底の様子を知る絶好の機会ともいえます。湖底が現れることにより、水面からは知りようがない荒々しい地形や意外と深い水深などを知ることができます。また、そこに生息している動物たちの足跡がそこら中にある様子は、興味深いものがあります。いつもと異なる風景を一度、ご覧下さい。



イノシシの足跡



↑上流側からの景色



↑ダム（下流）側からの景色





この人!

<海上の森を見てきた一人として>

海上の森の会 馬宮 孝好さん

海上の森には 1990 年代後半から訪れるようになりました。家から近くの距離に里山の風景が広がり自然に癒されるというのがよかったです。万博の際は日本自然保護協会など中央自然保護三団体などと協力して、海上の森が伐り開かれることに反対しました。海上の里では土地を借りて田圃をしました。その時には里の人のアドバイスを受けながら、水管理や草抜きでほとんど毎日海上の森へ通っていました。それから古民家の移築（現在の里山サテライト）を手伝いました。畑の実習や人工林の間伐を体験しました。今は体力が激減したせいで、生物季節調査とモニタリング 1000 の自然調査だけに参加しています。その他大勢の一人として海上の森での成り行きを見まもってきました。ところで、自然調査をしていることがあります。海上の森センターに学芸員がいるか、あるいはセンターが自然博物館的であればいいと思うのです。以前、海上の森を将来

どうするかという審議会に加わったことがあります。里山の調査研究の拠点として、少なくとも学芸員を置いて永続的な調査研究ができる施設を希望しましたが、これは実現しませんでした。海上の森センターは市民のためによくやっているといます。森によく来て学芸員のように生物の調査研究をする職員もいます。また市民と一緒に森を歩いて人工林や自然林の状況を見て、海上の森が将来どうあるべきかを話し合う職員もいます。こうしたことが、職員が替わっていても、受け継がれていくことを願います。また、学芸員的な人が常駐して、自然や生物についての質問に答えたりするシステムができると嬉しいです。海上の森センターは国際フォーラムなどよく情報発信を行い、既に外には十分な存在感を示しています。今後は内側に向いて、海上の森の現地での里山回復や循環社会実現の里山作りを主導するセンターになってほしいと期待しています。

センター職員随想

かたりべのひと言

新たな出会いばかりの海上の森

昨年 4 月から、あいち海上の森センターで働かせていただき、もうすぐ 1 年が経過しようとしています。自然を身近に感じる職場で、発見と驚き、そして感動の連続が止まらない海上の森で、今日はどんな発見や出会いが待っているのかを楽しみに毎日出勤しています。森の中を歩けば、日々、森は違う顔を見せてくれます。朝、出勤前に森の中を散策すれば、季節ごとに違う種の鳥たちが森の中でその声を響かせており、じっと声のするほうを観察すると、姿を見せてくれたりもします。遊歩施設では、ムササビやリス、ノウサギなどの野生動物に自然の中で初めて出会うことができ、とても貴重な体験となりました。今後も時間を見つけては、森の中を歩いて新たな発見、出会いを見つけていきたいと思っています。(H・N)

プロフィール

徳島県出身。瀬戸市在住。旧国営公園瀬戸海上の森里山構想をすすめる連絡会代表。



冬の蛾 (ガ) 森のなかま

昆虫の成虫は、比較的気温が高い春から秋までの期間に一般的には発生します。ところが数多い昆虫の中で冬の到来を待って羽化し、春が訪れるまでの期間だけ成虫になる蛾がいます。フユシャクの仲間です。この仲間はシャクガ科というグループに入り、シャクトリムシと言えば、お分かりになる方も多いと思います。この地域のチョウに詳しい高橋匡司さんによれば、海上の森にもクロテンフユシャクなど 4~5 種は観察できるとのこと。冬に蛾。なぜ、冬に成虫になるのか、不思議に思いませんか。では、冬蛾探訪とまいりましょうか。

文 SKI

シロフフユエダシャク



展示の目玉

昆虫の標本展示を行っています

11月17日より展示室におきまして、昆虫の標本展示を行っています。今年の夏から秋にかけて、当センター周辺や、館内、遊歩施設内などにおいて拾得した死骸を標本化したものです。甲虫のなかま、ハチのなかま、トンボのなかま、カマキリ・バッタのなかまなど、様々な昆虫の標本を展示しています。また、一部の昆虫については簡単な説明付きです。普段あまり目にする事のない昆虫もいるかもしれません。野外では、なかなかわからない、スズメバチなどの昆虫の実際の大きさや、ヤマトタマムシの美しさなどをじっくり観察してみてください。



展示のようす



「ワシタカの飛翔」展示

ワシタカ（猛禽類）の仲間が、空を悠然と飛んでいる姿を見たことはありませんか。とても高いところを飛んでいるため、地上から観察すると、かなり小さく見えてしまいますが、トビは翼を広げるとなんと1m70cm近くもあります！「ワシタカの飛翔」展示では、写真を実物大に拡大して展示を行っております。種類は、オオタカ（成）（若）、ハイタカ、ノスリ、トビ、ハチクマ、ミサゴです。ちなみにこれらの猛禽類は何れも海上の森で観察することができる種類です。比較しやすいように、身近なハシブトガラスも一緒に展示してあります。猛禽類の大きさにきっと驚かれることでしょう。



展示のようす（一部分）

Facebookはじめました！

あいち海上の森センター公式 Facebook を9月26日に開設しました。あいち海上の森センターではツイッターにおいても情報発信をおこなっていますが、Facebookでも情報発信をおこなうことにしました。

あいち海上の森センター公式 Facebook のアドレスは、<https://www.facebook.com/kaisho.center> となっております。

イベントの募集案内や、海上の森の情報などを発信しておりますので、ぜひチェックしてみてください。

※ツイッターと同じく、寄せられたコメントへの返信は致しておりませんので、ご了承下さい。



←こちらの QR コードからアクセスできます。

編集後記

いよいよ冬本番になり、日中でもかなり冷え込むようになりました。海上の森は、木々が落葉し始め、寂しい感じになってきました。春が待ちどおしいですね。

編集・発行 あいち海上の森センター（ムーアカデミー）

発行日 平成26年1月23日

〒489-0857 瀬戸市吉野町304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL: <http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>

